R100
古紙パルプ配合率100％再生紙を使用

一斉公開を前に報恩法要

諏訪　神宮寺の法華寺

きょう「諏訪神仏プロジェクト」

僧侶たちとともに参詣した稚児たちが行列に彩を添えた

江戸時代まで諏訪神社（現・諏訪大社）とともにあった神宮寺由来の仏像や仏具を有する諏訪地方の寺社、博物館が一日限りで一斉公開する「諏訪神仏プロジェクト」（同プロジェクト協議会主催、25日）を前に24日、神仏報恩法要と講演会が諏訪市中洲神宮寺の法華寺（篠本法光住職）で行われた。法要に先立ち、諏訪地方8カ寺の僧侶と稚児、プロジェクトのメンバーらが諏訪大社上社を詣でて、かつての神仏習合の姿をしのばせた。

プロジェクトは4年目。諏訪地方22の寺院・神社、博物館がゆかりの仏像、仏具などを公開し、報恩法要は参加寺の間で当番を決めて行っている。法華寺は諏訪大社上社本宮に隣接し、宮寺のように扱われた縁から本宮を参詣した。僧侶たちとともに、市内の小学生7人が稚児となって行列に加わり、彩を添えた。

一同はほら貝の音に合わせて歩み、鳥居の前で神職に迎えられて僧侶たちが幣拝殿に上がった。村上益弘宮司は「このプロジェクトを楽しみにしている人が増えている。神様、仏様、ご先祖のお導きでご加護がありますように」と拝礼を歓迎した。

法要は法華寺本堂で神宮寺由来の仏像「聖観音像」を前に厳かに行い、諏訪大社の権宮司、権禰宜も参列した。大役を果たした篠本住職は「観音様の心をいただき、すがすがしい気分」と話し、稚児役を務めた小学生中洲小学校6年の笠原和來叶さんは「緊張したけれど、やり切ったら楽しく、普段は入れない場所も見られていい経験ができた」と笑顔を見せた。

プロジェクト協議会の原直正会長は「斎庭、幣拝殿での参拝がかない、感激した。プロジェクトを諏訪の宗教文化の一大イベントとして一層盛り立てたい」と語った。

講演会では原会長らが「諏訪上社旧神宮寺跡について」と題して話した。来年の当番寺はくじ引きで平福寺（岡谷市）に決まり、芳名帳が引き継がれた。

（日比野真由美）